

「イクケン香川」 たまご育て事業

他孫育て応援講座バスツアー開催報告書

「イクケン香川」たまご事業 見てみよう！子育て支援ボランティアバスツアーを開催しました。50代から70代の18名が参加し、県内の様々な形態のボランティア活動拠点、3カ所を巡り、実際に見たり、体験したりして、子どもにかかわるボランティアをより身近に感じていただきました。

【日時】 令和5年1月12日（木）
 【対象】 子育て支援ボランティアに関心がある方
 【参加者】 18名



気分が上がる、素敵なお大型観光バスで高松駅を出発し、一路塩江へ。最初に訪れたのは、塩江町上西地区の旧上西小学校。過疎で人が少なくなったこの地を荒廃させたくない、という思いから、廃校になった小学校を地域の活動拠点として活用。里山の整備や、内場ダム周辺の竹切り、塩江産の野菜を使ったご飯の提供、高齢者のための居場所づくりなど、地域に根付いたボランティア活動がされています。お話を伺うとともに、「manma しのえ」の方々が作る、地産のものをふんだんに使った里山ごはんをいただきながら、交流を深めました。



さぬきこどもの国では、ボランティアについてのお話を伺い、ボランティアの意味や意義を確認することができました。その後、施設内をめぐり、わくわく児童館の3つの工房を見学したり、わくわくを届けるボランティア「わくティア」さんのお話を伺ったりしました。実際のボランティア活動の現場や、ボランティアをしている方の表情を見せていただくことで、子育てに関するボランティアをイメージしたり、自分にもできるかもしれない、と感じられたようです。



最後に讃岐おもちゃ美術館で、子育てを応援し、おもちゃと人をつなぐ「おもちゃ学芸員さん」のお話を聞きました。おもちゃ学芸員になった経緯や活動内容など、ボランティアを自分のこととして感じられるヒントがたくさんあったように思います。そして、おもちゃ学芸員さんのレクチャーを受けながら、折り紙で豆まき用のかわいい枀を作り、手を動かし、人とつながる楽しさを味わいました。

アンケートでは、「ボランティアの認識が変わった。」「ボランティア活動が身近に感じられた。」「いろんな活動の中で、自分に何ができるのか考えさせられた。」「子育てボランティアの活動が理解できた、やってみたいと感じた。」「身近な地域で、生きがいを見つけられるよう努力したいと思う。」などの意見をいただきました。子育てボランティアをより身近に感じ、前向きに参加してみたいと思うとともに、地域や人とのつながりの大切さも感じていただけたように思います。

